

(獨身税等の賦課)

五、消費生活を指導すること

六、結婚生活に必要な最少限度の収入確保の方途を講ずること

七、社會法令の強化徹底並運用の萬全を期すること

三 重 縣

一、結婚奨励金制度は勿論、子費手当制度、子費免租、特別醫療制度の擴充により、人口問題の解決を圖ること

鳥 取 縣

一、法による生活扶助額は法の種別により著しく差等あり、宜しく其の統一を圖り且其の額は現時の物價並生活の規準に見て相當増額を要するものと認む

二、人口問題に關しては獨り要救護者の保護にのみ止らず中堅層たる中産階級に對して結婚奨励金交付又は貸付、多子家族に對する手当制度等の奨励保護を加ふる要ありとす

廣 島 縣

一、救護法、母子保護法に於ける生活扶助の限度額の引上を行ふこと

二、中産以下の多子家庭に對し繼續的家族手当支給の途を講ずること

福 岡 縣

一、家族手当、母性年金制度の基礎的研究
二、人口問題、救貧事業より見たる多子家庭に於ける住居費、教育費負擔の緩和方策の研究

社團法人東亞經濟懇談會主催東亞農業懇談會の開催

社團法人東亞經濟懇談會に於ては刻下喫緊の要請に即應し日本内外地、滿洲國、支那、蒙疆に於ける農業關係者及關係經濟官等官民の會同を求め廣く東亞廣域に互る農業體制の時局的適應問題に關する東亞農業懇談會を開催、昭和十五年十月二十九、三十、三十一日三日間に互り東京市麹町區帝國農會會議室に於て活潑なる懇談討論が行はれた。その懇談議題、特に人口部會に於ける主要發言者の氏名及び題名、並にその討議の概要を掲ぐれば次の如くである。

人口部會 十月二十九日

議題 東亞農業人口の計畫的配置方策

座長 那須 皓

需給部會 十月三十日

議題 東亞農林水産物需給推算より見たる流通並に貿易方策

座長 村上龍太郎

増産部會 十月三十一日

議題 東亞農林水産物の統一的増産方策

座長 安藤廣太郎

部會報告 十月三十一日

座長 伯爵 酒井忠正

人口部會主要發言者氏名及議題

一、國土計畫的見地より

特に國土計畫としての人口配置

人口問題研究所金澤部長 北岡 壽逸

一、國土計畫的見地より

金澤院第一部調査官 竹本 孫一

一、國防的見地より

陸軍省兵務局兵備課 吉本 重章

一、民族衛生學的見地より

厚生省地方局技師 古屋 芳雄

一、農業再編成の見地より

帝國農會經營課長 石橋 幸雄

一、産業再編成の見地より

特に犠牲産業轉失業者の歸農に關して

農村更生協會 土屋 大助

一、北支滿洲への人口移動に關して

人口問題研究所研究官 小山 榮三

一、日滿間の勞力移動に關して

特に滿洲建設勤勞奉仕隊に就て

滿洲國開拓總局參事 杉野 忠夫

一、滿洲移民に就て

拓務會拓務局總務課長 梁井 淳二

一、滿洲に於ける人口問題

滿洲拓殖公社總務部長 村山藤四郎

一、東亞農業人口の一般方策

開拓總局總務處長 五十子卷三

人口部會は人口資源としての内地農業人口と日本農業再編成としての適正規模農業の問題との關聯についての再検討が討議の中心議題となり、所謂適正規模農

業による農業再編成が齎らず農業人口の著減（甚しき場合は農家半減）に對し人口政策的見地より少くとも現在の農業人口數を堅持存続すべきことが要望さるゝ一方、他方には零細農家の人口資源としての價値を認めず其の農業生産力も亦乏しきを指摘して、農業再編成の急務が力説された。また適正農家は理想論にして専ら靜態人口を基礎として立論せられ人口増勢を考慮するときは實現性なしとする者ある一方、他方には過剩農業人口を滿洲國へ移住せしむるも其の人口資源として意義亦重大なりとの主張が開陳された。

更に日本内地に於ける轉業問題と農業とについては現在小賣商人の三分の一は漸次轉業を餘儀なくせらるる立場にあり、國民は彼等を國策意識の誇りを以て轉業せしむるやう努力すべきことが力説せられた。特に明治維新に於ける四十萬戸二百萬人の土族授産事業と北海道墾田事業とが想起せられ、今や彼等を滿洲國に開拓農民として歸農せしむべきこと昭和維新の緊喫事なる所以が強調された。とりわけ甲府に於ける米穀商代表の滿洲視察とその結果に關する實例はこの問題に明るい光を投ずること尠くなかつた。

また滿洲移民の問題については滿洲開拓農民が出生率高く乳兒死亡率低きことを指摘し人口資源として重要なことが報告せられたが、之に對し出生率の比較は人口の年齢構成の相違を考慮せざれば正確を得難しとの専門的注意も見た。特に滿洲への移民問題については大和民族の血族的潔癖性を力説して他民族との混血を好ましからずとし、少數人口を以て多數を指導するには單に精神的のみならず物質的にも充分卓越せ

る條件を伴ふべきことが主張せられた。また本國との文化的及び血液的交流を喪ふときは海外移住民は日本移民として退化を餘儀なくせらるる、等の事實も忠告せられ今後の滿洲開拓に際し深く研鑽せらるべき重大事項たるを思はしめた。

最後に最近其の設定要綱の決定を見た國土計畫については農業人口問題が充分考慮され居ることが判明せられ、又國土計畫は單なる土木計畫または産業計畫にあらず寧ろ人口政策が極めて重要な地位を占むべきことも力説された。

その他機業工場の多い北陸地方に農村結核死亡率の極めて高い事實も報告せられ民族衛生學的見地より新國土計畫に於ける産業配分計畫に關し特に考慮されたき旨要望せらるゝ等種々傾聴に値する論議が發表討論せられた。

尙、本研究より出席せる北岡企畫部長は我が國將來人口の推定その他種々の統計資料により將來總人口の増勢、現在に於ける農業及び商業人口の過剩を指摘し乍ら他方工業の發達はその生産増に比例せる人口收容力を伴はざる事實を挙げ、我が國將來の人口收容力の問題について傾聴すべき所見の開陳あり、特に國民經濟及び國防上農業の重要性を力説、農業人口を少くとも現在以下に減少すべからざる所以を強調され内地農業過剩人口處理の問題に就いて一重要問題を提供、また小山研究官は大和民族の混血を非とし海外移民の精神的・物質的條件の強化を主張する等滿洲移民問題について今後慎重検討せらるべき問題を提示するところあつた。

財團法人日本學術振興會第一特別 (民族科學)委員會研究報告會の開催

昭和一四年一〇月二五日、時局下の切迫せる要求に應じ、人的資源問題を研究し、行政の實際に資せんとする目的を以て、財團法人日本學術振興會内に第一特別(民族科學)委員會の設置せられたることは既報(本誌第一卷第一號八五頁参照)の如くであるが、同委員會開設後日猶淺きに拘らず、報告材料の見ること多々あるに鑑み、關係各方面の學者の前に之を公開し、十分の批判検討を受くる必要あるのみならず多數行政部門の實際家の參考に資する爲、昭和一五年一〇月一九日、東京市丸之内工業俱樂部に於て、第一回報告會を公開を以て開催した。同報告會次第は左の如くであるが、時局下頗る緊要なる問題であり、且つ此の種報告會は日本學術振興會最初の試みであつて頗る關係方面の視聽を集め、來會者關係各方面の權威一五〇名の多きに達し、多大の收穫を修めた。

日本學術振興會 研究報告會次第
民族科學委員會

一、開會之辭 委員長 林 春 雄

一、體力部關係 體力指標の研究
公衆衛生院 安田 守 夫(研究員)
體育研究所

一、體力法による運動機能検査方法(荷重速行)の批判
厚生 會 古屋 芳 雄(委員)
體育研究所 吉田 章 信(研究員)

一、體力法準備調査成績の概要